

国内トップと対戦 成長の糧に 岩手、男女2競技 日本代表に完敗



女子 岩手―日本 リードを許さずしり腰開ながら粘り強く応戦する岩手の第1ダブルス 中島葵(左)と島山幹花(ともに花北青雲高) 相 手 北上市・北上総合体育館

バドミントン

| | | | | | |
|-----|----------------|--------------------|--------------------|----------------|--------------------|
| ▽男子 | 2日 本 5 0 2 敗 手 | 2中 勝 3 2 1 勝 1 敗 本 | 2中 勝 3 2 1 勝 1 敗 本 | 2日 本 5 0 2 敗 手 | 2中 勝 3 2 1 勝 1 敗 本 |
| | | | | | |

技術、パワー、戦略。圧倒的な総合力の高さを見せつけられた。男女の岩手は、今月のインターハイの単複、団体の上位入賞選手をそろえた日本代表にストレート負け。男子の村井聡紀主将(盛岡市立高3年)は「ミスが少なく、ラリで甘さが

総合力の壁崩せず バド岩手

ない。思うように押し込めなかった」と肩を落とした。「JAPAN」の独壇場だった。単複ともに隙がない。ラインいっぽいに打ち込まれる精度の高いショット、甘いリターンを逃さない決定力、相手の動きを見極め試合を進める洞察力。岩手の選手はミスから得点される場面が多く、中盤以降はリードを奪えなかった。一本ずつのショットならワンレだけで見れば、見劣りはしない。磐石直人(前沢高1年)はインターハイのシングルスを制した古賀穂(福島・富岡高3年)と序盤競り合い、女子ダブルスの島山幹花、中島葵(ともに花北青雲高2年)組も粘り強いリターンからポイントを奪った。それでも「返しても返しても相手に跳まれてくる気がした」と島山。終始ペースをつかまれ、見えない重圧に押しされた。いいプレーをポイントにつなげ(ゲームを獲得する)2点を積み重ねる力が、まだ及ばない。男子の菊地亨監督(花北青雲高教)は「トップはトータルの方が速い。これからどれだけ意識を高められるかが鍵」と成長を促す。「筋力を付けて技術を磨く。弱きを克服していかなければ」と中島。磐石は「速さ、パワーを付けて互角に戦えるようになりたい」。敗戦から学び、経験者方に委ねていく。(岩)